

①

8

小 論 文

ページ	解答用紙枚数	時 間
1 ~ 7	1 枚	120 分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は7ページある。印刷不鮮明の箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答は指定の解答用紙に横書きで記入すること。
4. 解答用紙の指定欄には必ず受験番号を記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

問題文訂正

小論文

該当箇所	1 ページ 9 行目
誤	下線部①「自分が見聞した物事を，……
正	下線部①「自分が見聞 <u>き</u> した物事を，……

- (注意)
- ・解答は指定された解答欄に横書きで記入し、字数は指定を超えないこと。
 - ・解答用紙は1行が20字、全部で1,200字となっている。
 - ・解答の際、句読点、引用符、カッコなどはいずれも1字に数える。
 - ・ただし、行末の句読点などは字数に含まれないものとする。

次ページ以下の〈資料〉は、小林朋道著『モフモフはなぜ可愛いのか 動物行動学でヒトを解き明かす』(新潮社、2024年)の一部である(ただし、出題にあたり原文の一部を変えている)。

この文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

問1 下線部①「自分が見聞した物事を、他人もそうだと当てはめたり、Aのグループである人間はこうだ、と決めつけてかかってしまう事が多いのはなぜでしょうか?」という問いに対する筆者の回答を300字以内で要約しなさい。

問2 下線部②「もし、現代が100人の狩猟採集生活を送る集団だったら振り込め詐欺にひっかからない人は生き残っていないだろう。」ということはどういうことですか。筆者の考えをわかりやすく300字以内で説明しなさい。

問3 下線部③「こういった脳の『思い込み』特性を抑えるにはどうしたらよいだろうか。」とあります。筆者の考えを簡潔に述べた後に、自らの具体的な経験を例にして、600字以内で自分の見解を述べなさい。

ある対象を見たり聞いたりしたとき、対象の細部を、脳内にある、これまでの主に学習によって蓄えられている記憶と細かく比較するのではなく、その対象の大まかなパターンが記憶内に見つかれば、その記憶をそのまま意識にのぼらせるのである。「細かく比較する」とその際の神経活動のために、かなりのエネルギーが消費されるため、それを避けるために「思い込み」があるというわけだ。

「新年、あけまして、おめでとうございます」の例では、それを見たとき、それと大まかに似ている脳内記憶の「新年、あけまして、おめでとうございます」がすぐにヒットし、それが意識にのぼったのである。

通常は、この情報処理のやり方で、まず、うまくいくので、「省エネ思考」になる。

「ある団体の人、数人と、ある話題について話をしたら数人とも同じ考えを言った、という経験をしたら、その団体的人是みんな、そう考えているのだろうと“思い込む”」……という場合はどうだろう。

これも、結束したグループをつくっている集団(仮に A 集団としよう)のメンバーは、(話題にもよるが)似たような考え(仮に a としよう)を持っている場合が多く、「A 団体的人是みんな、a と考えているのだろう」と考えるのは脳内神経系の省エネにつながる場合が多いだろう。

どこかで、また A 集団の別の人に会ったとき、脳内記憶の「A 集団」=「a という考え」という大まかなパターンが意識にのぼるだろう。

脳が消費するエネルギー

ここで、「細かく比較すると、その際の神経活動のために、かなりのエネルギーが消費され、それを避ける」ことによる脳内神経活動の省エネがなぜそんなに、生存・繁殖に有利なのか、少しだけ触れておこう。

「自然の中での狩猟採集生活」においては、体内に吸収できるエネルギーは、理想の量から比べると不足しがちであったことは容易に想像できる。火を使うことで収穫物の動物や植物からエネルギーを吸収しやすい状態にすることができたと考えられているが、それでも不足は補えなかったという考えが定説である。

いっぽう、狩猟採集ホモサピエンスの脳は、重量では体重全体の約 2 % にすぎないのだが、他の器官と比べエネルギーの消費量はとても多く、体全体が消費するエネ

増した現代では、省エネの思い込みが、生存・繁殖に不利になる場面が増えてきたといえるのではないだろうか。

拙著「苦しいとき脳に効く動物行動学」(築地書館)の裏表紙には、私が書いた本文に目を通された編集担当の方の、全体の内容を表現するコピーとして、次のような文が記してある。

「もし、現代が100人の狩猟採集生活を送る集団だったら振り込め詐欺にひっかかる②
らない人は生き残っていないだろう。」

読者の方は、このコピー文がどういうことを意味しているか、直ぐには、おわかりにならないかもしれない。

このコピー文こそ、まさに、先の文章「ただしだ。では現代社会ではどうか、という状況は異なってくる。科学技術や経済の規模やその動き方、人間関係や人間同士で交わされる情報の複雑さなどが格段に増した現代では、省エネの思い込みが、生存・繁殖に不利になる場面が増えてきたといえるのではないだろうか」を逆説的な言い方で表した名コピーなのだ。

こういうことだ。

“犯人”が、手の込んだ状況を充分に揃えて(つまり、たとえば、キャッシュカードに絡めた詐欺の場合なら、警察官役の人物や銀行協会の職員役の人物など)、それぞれが真実味のある説明をしたとすれば、少なくとも狩猟採集時代(それがホモサピエンスの体の構造や脳の認知神経配線などが適応した本来の環境)のホモサピエンスであれば、信じるのが脳の当然の動き方だ。

そもそも、狩猟採集時代にそんな手の込んだ嘘を設定するようなことはありえず、したがって、そんな環境に適応した脳の神経配線は、正しい重要な情報として認知し、それに対応すべく行動したほうが生存・繁殖には有利だっただろう。それを、「これは嘘かもしれない」と考え、疑って、直ぐに動かないような個体は生存・繁殖において大きな損害を被っていた可能性が高かった、ということだ。

エネルギーも損失するし、生死を分ける瞬時の判断が求められる狩猟採集生活においては、“振り込め詐欺”的情報を怪しんで、疑り続けて、行動を起こさない個体は、“生き残っていないだろう”というわけである。

らの偏った情報の脳内入力に対抗して、真実に近い状態を理解することであり、行為を示すものである。

マスコミは視聴率を上げなければならないのでヒトが不安やショックを感じるようなニュースを選択して流してくる。それを受け止める脳は、社会では、そういったことが頻繁に起こっているのだ、と解釈してしまう。社会の状況をそのように感じてしまう(それは、少なくともホモサピエンスが適応した本来の狩猟採集生活環境においては生存・繁殖に有利に働く脳の特性だ)。

ファクトフルネスに基づく状況把握では、客観的に、各々の出来事の件数(!)が数えられる。

最近の米国での調査によれば、調査地域では、犯罪件数は明白に減少しているのに、そこに住む市民の過半数は、おそらくマスコミが伝える情報による脳の解釈によるのであろう、犯罪は増えていると感じていることなども明らかにされている。

「ファクトフルネス」は、私が、習慣として脳に刻みつけた言葉の一つでもある。

(注 1) Twitter：アメリカで生まれた SNS であり 2023 年から名称が「X」に変更されている。

(注 2) ファクトフルネス：思い込みや直感ではなく、統計や事実によって世界を理解しようとする考え方や姿勢のこと。

令和 8 年度入学試験小論文「出題意図」

人間発達文化学類 一般入試 後期日程 全コース

人間発達文化学類の以下のアドミッション・ポリシーを踏まえつつ、資料を与え、1,200 字程度で論述させることにより、受験者の読解力・理解力・思考力・表現力を総合的に判断する。

人間発達文化学類では、生涯にわたる発達への支援や、人間の発達を支える社会・文化への支援を通じて、学校はもちろんのこと、行政や企業、地域社会で活躍することを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間の発達を支援する教育および文化についての専門知識や技術を習得し活用する力
- ・現代的課題や地域的課題への問題意識をもち、個々の事象を複数の観点から捉える力
- ・人や文化の多様性を理解し、共感的態度をもって価値観や考え方の違いを超えた関係を築く力
- ・学問固有の問いの立て方、ものの見方・考え方を身に付け、それらを活用しつつ社会の改善に向けて探究し表現する力

具体的には、小林朋道著『モフモフはなぜ可愛いのか 動物行動学でヒトを解き明かす』（新潮社, 2024 年）による資料を与え、人間発達を支援する際に必要な資質や適格性を総合的にみる。

問 1 及び問 2 では、資料を読み取り、その内容を要約・説明させることによって、受験者の読解力・理解力をみる。

問 3 では、思い込みについての著者の見解を踏まえた上で、その内容を自らの経験、見聞に基づいて考えさせ、その考えを論述させることにより、論理的な思考力と文章表現を総合的にみる。